

(参考様式5)

事業活用活性化計画目標評価報告書

計画主体名	計画主体コード	計画番号	計画期間	実施期間
静岡県 島田市	220001	1	平成20年度 ～平成22年度	平成20年度
活性化計画の区域				
静岡県 島田市 笹間地区				

1 事業活用活性化計画目標の達成状況

事業活用活性化計画目標	目標値A	実績値B	達成率 (%) B/A	備考
交流人口の増加	600.93%	847.35%	141.00%	

(コメント)

計画時の年間入込客数は、平成16～18年度で642人であったが、今回事業実施による計画期間内(平成20～22年度)の入込客数は6,082人と目標の4,500人を上回り、計画目標を達成した。

なお、入込客が夏季に多く冬季に少ないという課題があるため、年間をとおしての誘客に努めたい。

2 目標の達成のために実施した各事業の内容と効果

事業メニュー名	事業内容及び事業量			事業実施主体
廃校・廃屋等改修交流施設	廃校舎を宿泊体験交流施設へと改修 RC造2階建 一部平屋建 延床面積1,181.51㎡			島田市
管理主体	事業着工年度	事業竣工年度	供用開始日	
企業組合くれば	平成20年度	平成20年度	平成21年4月1日	
事業の効果				
宿泊体験交流の活動拠点が整備されたことにより、短期の交流から長期の交流が可能となり、農山村の魅力をも十分にPRできるようになったことにより、交流人口の拡大が図られ、活力が低下状態にあった笹間地区の活性化が図られた。				
また、廃校舎の改修による施設整備という点においても、既存施設が有効活用されるだけでなく、地域住民が一体となり地区の中心的存在であった小学校の再利用による地域活性化の取り組みが行われる等、社会的に意味ある事業であると認識している。				

3 総合評価

(コメント)

施設の利用者は目標を達成しており、その内訳としては、各種の少年団活動や中学・高校の部活、企業研修、一般来客者など、幅広い分野の人が、施設の利用をとおして、農山村の生活を体験している。

特筆すべきは、利用者の8割がリピーターとして再び訪れていることで、その要因としては、「もてなしメニュー」をとおしての笹間地区の人たちとの交流が、利用者に大変好評を得ていること等が考えられる。

なお、地元活性化や経済効果については、拡大の余地がまだ十分にあり、今後、冬季の誘客や近隣施設との連携を強化しながら、ますます地域活性化を推進し、効果を波及させていきたい。

4 第三者の意見

(コメント)

地域の拠点となっていた小学校が廃校になり、住民のまちづくりへの意欲の低下が心配されたが、山村都市交流センターを整備していただき、地域の新たな資源として大きな期待を寄せられ、それに応える運営がされていると考えている。

特に、都市部との青少年を始め各種団体との交流を通して地域活性化を図ること。具体的には、雇用の効果や食事提供、体験ものの実施等により地域への波及効果も高まってきていることは評価している。

地区そのものが、限界的集落の様相を呈している中で、この種の施設を拠点にさらに積極的な取り組みをしていくことを期待している。

(笹間自治会長、島田市農業委員会農業委員)